

(2) 山梨リニューアル委員会(総括)

委員長 五領田周司

山梨リニューアル委員会は、昨年に引き続き「リニア部会」「中部横断道部会」「交流人口推進部会」の3部会により活動を展開してきた。

コロナ禍、活動が制約され、全体委員会の開催予定が定まらない中、幹部会メンバー方式にて4回の(3/24、5/13、6/3、6/21)会合を持ち、活動の方向性や情報交換を行い、3部会が連携して山梨経済の持続的な発展に寄与できるよう活動を行った。

(幹部会メンバー)

入倉要、五領田周司、志村浩男、原田由紀彦、依田光人、飯島禎典

小澤健太郎、小倉恵一、内藤英明、豊前貴子、大嶋敬史、深沢文雄

(ゲスト参加者)

武藤慎一教授(山梨大学大学院総合研究部工学部土木環境工学科)

安藤明範課長(山梨県リニア未来創造推進課)

濱谷健太所長、三森基裕課長(国交省甲府河川国道事務所)

リニア部会では、幹部会に、以前経済効果を算出頂いた山梨大学武藤教授にもゲスト参加頂き、リニア新駅からの2次交通の重要性を確認するとともに、リニアと接続する鉄軌道(LRT)の有り無しによる便益差を含めて、再度経済効果を算出して頂く事とした。12月に試算結果が出る予定であるが、今後その結果を基に2次交通の重要性が県全体の活発な議論に発展できるよう活動していく。

中部横断道部会では、幹部会で確認した中部横断道とリニア開通による相乗効果を、以前それぞれ個別に算出頂いた山梨大学武藤教授にお願いする事を軸に活動を行った。また、9月に南部区間(山梨～静岡)の全線開通が決まり、国交省(国交省甲府河川国道事務所)とそれに向けての盛上げ策の連携を協議、やはり、開通による経済効果をプレスする事によるインパクトは大きいとし、12月を目途に今後事業化予定の北部区間(山梨～長野)の経済効果を山梨大学武藤教授に算出頂くキックオフミーティングを7月に実施した。8月29日に中部横断道南部区間(山梨～静岡)の全線開通式が執り行われ、当会を代表して入倉代表幹事が招待された。以前山梨大学武藤教授と共にプレス発表した、開通による経済効果も現場で紹介された。今後北部区間(山梨～長野)経済効果試算を12月目途に進めるとともに、その事業化の進捗にも注視しつつ活動を行っていく。

交流人口推進部会では、本委員会の各部会と連携し活動計画を行ってきた。中央道～東富士五湖道路～新東名新御殿場JCTの開通(4/10)や、中部横断道南部区間の開通(8/29)により、インフラ整備によるネットワーク形成が、首都圏・静岡県および中京地区からの観光を目的とした交流人口の増加や移住促進に大きく寄与すると考え、適したテーマでの講演会や座談会の放映を計画した。しかしながらコロナの感染拡大等により残念ながら実施することが出来なかった。今後コロナの感染収束に期待しつつ活動を継続していく。

次年度はリニアの開業は2027年予定、中部横断道南部区間は本年8月に開通し北部区間(山梨～長野)は今後事業開始予定であるため、3部会とも引き続き大規模インフラ新設による山梨経済の持続的な発展・観光誘致・移住定住の促進を図るべく活動を継続していく。

3部会の詳細な報告については、後述の各部会報告を参照。

以上

① リニア部会活動報告

部会長 志村 浩男
副部会長 小澤 健太郎
副部会長 小倉 恵一

部会として下記の活動を実施した。

- 3/24 古名屋ホテル 16:00~17:30 リニューアル委員会幹部会
リニア部会で研究してきたリニア駅からのLRTによる2次交通計画の概要の検討
- 5/13 古名屋ホテル 16:00~17:30 リニューアル委員会幹部会
リニア駅からのLRTによる2次交通について費用対効果の定量的な提言づくりへの協力を山梨大学 武藤教授 に依頼することとした
- 6/3 県立図書館 16:00~17:30 リニューアル委員会幹部会
国交省依頼の今後事業化予定の中部横断道北部区間（山梨～長野）と合わせてリニア2次交通による費用便益研究を山梨大学武藤教授に依頼することとした
- 6/21 東京ガス山梨 会議室 16:00~17:30 リニューアル委員会幹部会
ゲスト 山梨大学 武藤教授 安藤 県リニア推進課長
濱谷 甲府河川国道事務所長 三森 同所計画課長
武藤教授による公共事業費用便益分析についてのレクチャーおよびリニア駅からのLRTによる2次交通及び中部横断道開通による費用便益研究の依頼
- 7/5 山梨大学 多目的室 武藤教授訪問
費用便益研究の詳細打合せ
- 10/11 山梨大学 多目的室 武藤教授および学生による中間報告
山梨県駅から富士山麓方面へのアクセス交通整備評価（次ページを参照）

部会ではリニア新駅と富士山駅を架線不要のLRTで結ぶ計画の推進を働きかけています。県の考える富士山登山鉄道につながれば、現状来県観光客の4.3%にしかすぎない関西方面の観光客をリニアと富士山観光の相乗効果により大幅に増やせると考えます。国中・郡内を鉄軌道による接続で1体化環状化を図りつつ、新駅の乗降利用客数増加によって「新駅の停車本数の増加につながること」が山梨にとって重要です。又、山梨に住む若者がリニアを利用して東京関西へ通勤できることにもつながり、若者が故郷に住み継ぐ為の得難く重要なインフラ整備になると確信します。

<今後の取り組みについて>

10/11の中間報告に関西方面からの利用客を加えて再検討し、年内に第2回目の打合せを予定

以上

(2021.10.11) 山梨大学武藤教授他学生2名による

リニア中央新幹線の山梨県駅(仮称)から
富士山麓方面へのアクセス交通整備評価 (中間報告)

所要時間計測方法

【速度設定】

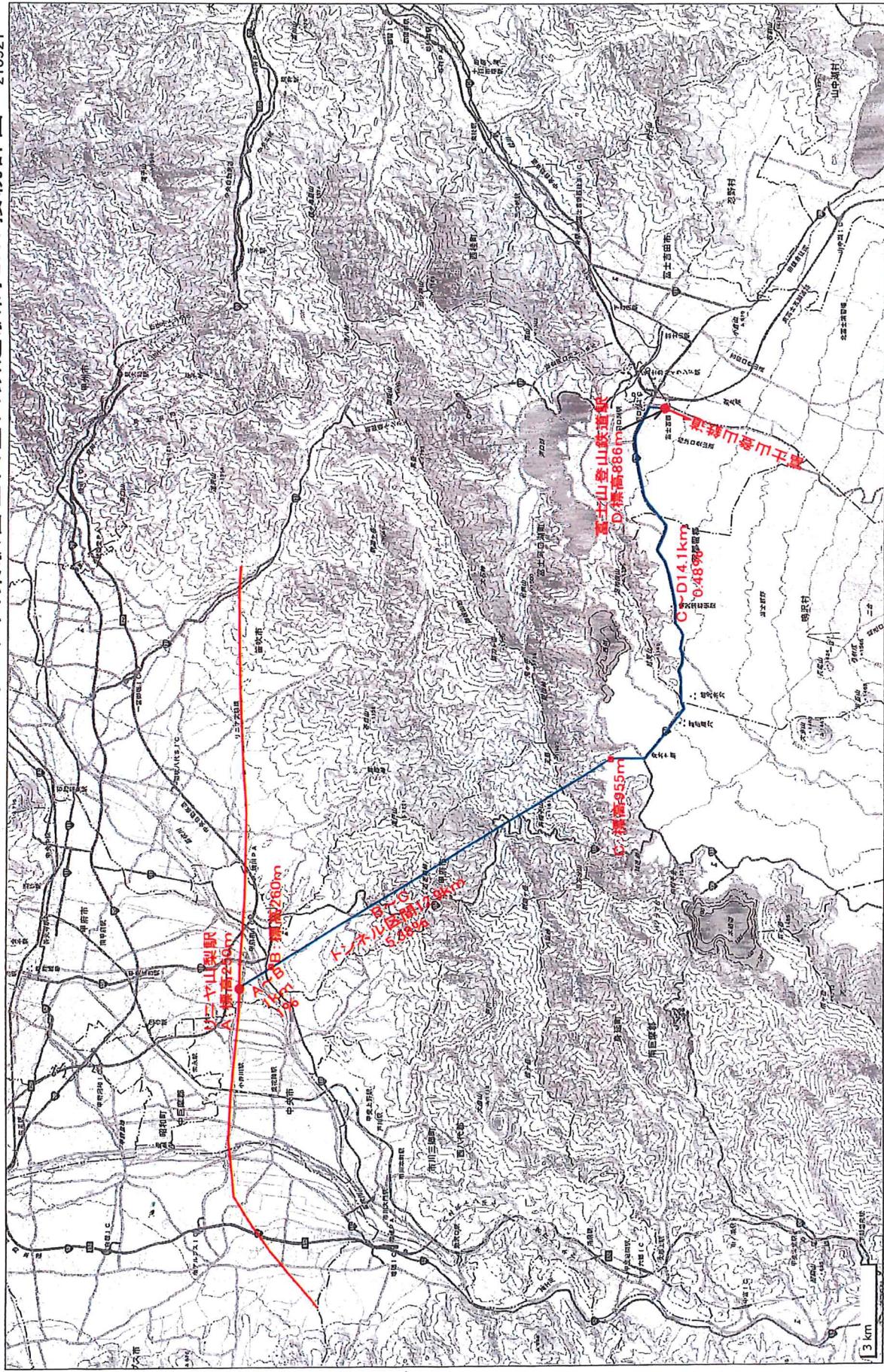
- ・徒歩:5km/h
- ・バス:20km/h
- ・鉄道:70km/h
- ・アクセス交通:56km/h

アクセス交通開通における所要時間計測結果

(単位:分)

始点	終点	開通前	開通後	所要時間差
JR甲府駅	富士吉田市役所	78.1	69.4	-8.7
リニア駅	富士吉田市役所	113.7	56.2	-57.5
JR甲府駅	富士河口湖町役場	82.5	68.3	-14.2
リニア駅	富士河口湖町役場	118.2	55.1	-63.1
JR甲府駅	鳴沢村役場	86.3	36.5	-49.8
リニア駅	鳴沢村役場	121.9	23.3	-98.6
南アルプス市	富士河口湖町役場	133.1	115.2	-17.9
甲州市役所	富士河口湖町役場	74.4	74.4	0

(※)今後は、アクセス交通開通に伴う経済効果を算出予定



—— LRT 延長28km 最大勾配5.38% 平均巡航速度56km/h
リニア山梨駅富士山登山鉄道駅間接続目標所要時間30分

②中部横断道部会活動報告

部会長 五領田周司
副部会長 依田 光人
副部会長 飯島 祐典

今年度の活動は期初における幹部会(令和3年3月24日、5月13日)で活動の方向性を議論し、次の2点について確認した。

- ① 中部横断道南部区間(山梨～静岡)の全線開通が本年夏の予定となっているが、開通見込みとその盛上げ策等について、国交省甲府河川国道事務所ならにNEXCO中日本甲府保全センターに内容確認する。
- ② 中部横断道南部区間の度重なる開通延期により地元経済の盛上げに欠ける状況になっている事、ならびに、2027年リニア開通の予定にはなってはいるが「県への提言」を行った面的な地域活性化策である「鉄軌道の重要性」について行政の議論が進捗していない状況から、以前山梨大学で実施して頂いた経済効果試算の視点を変えて、『前回はリニア・中部横断道それぞれの大規模交通インフラ開通による効果試算だったものを、今回は両方の相乗効果による経済効果を算出頂いて、再度地域経済活性化の起爆剤にする。』という方針を確認した。

5月13日以降、国交省、NEXCO中日本、ならびに山梨大学武藤教授(前回経済効果試算を算出頂いた)と情報交換を行ってきた(活動経過は後述)

- ① 経済効果試算の依頼については、今後事業開始予定の北部区間(甲府～長野)開通による試算、リニア・中部横断道開通による相乗効果の試算、リニア開通に伴う鉄軌道有り・無しによる効果差の試算、この3点について本年12月を目途に実施する事でキックオフ。
- ② その他情報交換の中で、山梨・静岡両経済同友会の代表幹事による「中部横断道開通による期待」を座談会形式でテレビ放映する計画や小学生による作文公募等計画したが、コロナの状況や静岡の豪雨災害等により中止となった。

令和3年8月29日「下部温泉早川IC ⇄ 南部IC」間の開通式が山梨・静岡両知事参加のもと、当会入倉代表幹事や山梨大学武藤教授も参加し執り行われ南部区間全線開通となった。この際、昨年11月に部会で協力取材に応じた『夢ロード』(国交省出版)が会場で配布され、同時に南部区間開通による経済効果(1.11既記者発表)も紹介された。

次年度は、大規模交通インフラの有効活用が促進されるよう、リニア部会とも協力し、上記経済効果試算を12月の発表を目指すと共に、更に北部区間(山梨～長野)の全線開通による期待効果を高められるよう活動を行っていく。



<詳細な活動経過報告は以下のとおり。>

(1) 国交省関東地方整備局甲府河川国道事務所長との情報交換。

日時 令和3年5月19日(水)9時半

場所 (株)イリックス応接室

出席者 国交省関東地方整備局甲府河川国道事務所 濱谷健太事務所長、三森基裕課長

山梨経済同友会 入倉要代表幹事、五領田周司部会長、深沢文雄事務局長

内容

(国交省)

・中部横断道南部区間の全線開通が本年9月と決定。

・それに伴い積極的な盛り上げ策を、例えば学生への期待公募や経済効果試算を北部地区(長野まで)も合わせた形で再試算または山梨・静岡の両経済同友会に開通前視察をして頂いてそれをマスコミにPRしていく等9月までの発射ボタンとして何か盛上げ策を検討していただきたい。

(同友会)

・同友会としても積極的な盛り上げ策を実行していきたいとを考えているが、学生の期待公募はこのコロナ過大学側が難しい。また経済効果試算は当方も北部地区に加えてリニアとの相乗効果試算を実施したいと考えているが、今から9月に向けてスケジュール化は難しく12月くらいを目標にすべきだと考えている。

<本日の内容を6月15日に再討議>

(2) NEXCO中日本甲府保全センター所長との情報交換。

日時 令和3年6月9日(水)11時

場所 NEXCO中日本甲府保全センター

出席者 NEXCO中日本甲府保全センター 坂下淳所長、須藤涉副所長、矢崎秀徳課長

山梨経済同友会 入倉要代表幹事、五領田周司部会長、依田光人副部会長、事務局長

内容

・9月に向けたキャンペーンイベントを国交省と連携し進めていきたい。

・NEXCO中日本としては富士川、峡南協議会(5町連携)を利用して道の駅ネットワークにより周知、利用促進策を進めていく。

・4車線化の希望は交通量や事故の状況により検討。経済団体からの提言等も考慮の可能性がある。

(3) 国交省関東地方整備局甲府河川国道事務所長と第2回情報交換

日時 令和3年6月15日(火)10時

場所 国交省甲府河川国道事務所

出席者 国交省関東地方整備局甲府河川国道事務所 濱谷健太事務所長、三森基裕課長

山梨経済同友会 入倉要代表幹事、五領田周司部会長、依田副部会長、事務局長

内容

・国交省としては長野を含めた経済効果試算を今後の目玉としたい。

・山梨、静岡の経済同友会の代表で中部横断道への期待効果の対談を行いテレビ放映しPRする企画を進める。

・身延町の小学生に開通前に中部横断道ウォーキングを実施。その感想文の表彰を山梨経済同友会で実施。

・6月21日予定のリニューアル委員会幹部会に山梨大学武藤教授が参加されるので、国交省甲府河川国道事務所からもゲスト参加し今後の経済効果試算について情報交換を行う。

(4) リニューアル委員会幹部会の開催

日時 令和3年6月21日(月)16時

場所 東京ガス山梨

ゲスト 武藤慎一教授(山梨大学大学院総合研究部工学部土木環境工学科)

安藤明範課長(山梨県リニア未来創造推進課)

濱谷健太所長、三森基裕課長(国交省甲府河川国道事務所)

リニューアル委員会幹部

入倉要、五領田周司、志村浩男、原田由紀彦、飯島禎典、小倉恵一大嶋敬史、事務局長

内容

・リニア開通に向けた山梨県の現在の取組み・方向性を安藤課長より説明。

・大規模交通インフラ新設による経済効果試算の概略を武藤教授より説明。

・中部横断道、リニアの経済効果試算について今後の進め方を協議。

本年12月発表を目指し、7月からキックオフする事で合意。

(5) 山梨大学武藤教授との経済効果試算キックオフ

日時 令和3年7月5日(月)17時

場所 山梨大学工学部

出席者 山梨大学大学院総合研究部工学部土木環境工学科 武藤慎一教授、学生2名

国交省関東地方整備局甲府河川国道事務所 濱谷健太事務所長、三森基裕課長

山梨経済同友会 入倉要代表幹事、五領田周司部会長(中部横断)、志村浩男部会長(リニア)、小澤健太郎副部会長(リニア)

内容

・経済効果試算の12月発表を目指し、以下の3点を算出。(10月頃に進捗状況を確認する)

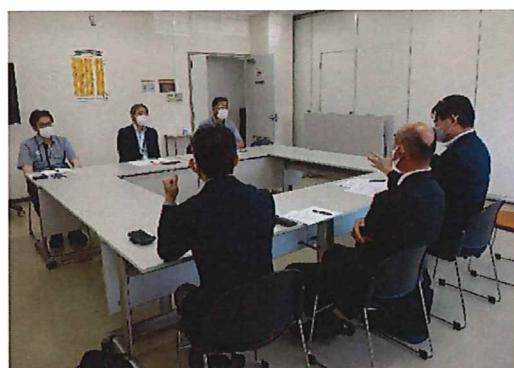
①中部横断自動車道の北部区間(甲府～長野)開通に伴う経済効果試算

②中部横断自動車道とリニアの二つの交通インフラ開通に伴う相乗効果による経済効果試算

③リニア開通時における接続している鉄軌道の有り無しの経済効果差



2020.11.11 「夢ロード」取材



2021.6.9 NEXCO 中日本訪問



2021.6.15 国交省甲府河川国道事務所訪問



2021.6.21 幹部会(於:東京ガス山梨)

③ 交流人口推進部会活動報告

部会長 原田由起彦
副部会長 内藤 英明
豊前 貴子

本部会は、2020 年初頭から世界的規模で感染が広がった新型コロナウイルスの感染拡大が 2021 年には一定の収束を迎えることを前提に、本年度の活動をリニューアル委員会の各部会と連携し、計画を行ってきた。

本年度人口交流面で期待された山梨県における変化予測は、①1 年延期となった 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催、②静岡県側の高規格道路「一般国道 138 号須走道路・御殿場バイパス」の開通(令和 3 年 4 月 10 日)によって山梨と御殿場間が高速道路で結ばれたこと(中央道(富士吉田線)～東富士五湖道路～国道 138 号バイパス～新東名新御殿場 JCT に接続)、③度々延期となっていた県民待望の山梨と静岡を結ぶ中部横断自動車道の全面開通(令和 3 年 8 月 29 日)によって、中央自動車道と東名、新東名を結ぶ山梨・静岡間の環状交通インフラが完成したこと。この様な好条件の中、山梨県産業や経済にとって after コロナを見据えた上で様々な展開が期待されていた年であった。



本部会では、上記のインフラ整備の完成により、新たな富士山を一周する広域道路ネットワークの形成が、首都圏、静岡県および中京地区との観光を目的とした交流人口の増加や移住促進等に大きく寄与すると考え、after コロナを見据え、『山梨の魅力再発見・そして山梨を元気に』をテーマに街づくりをテーマに活動している研究者を講師に迎えて講演会の開催を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症に対する度重なる行動自粛や規制等による影響もあって、対面での部会の打ち合わせもままならず、また講演会の開催スケジュールや講師のブッキング等も不調性となり、実施することが出来なかった。

また、中部横断道開通に絡めて静岡、山梨が繋がることで今後どのように連携し発展していくかといった観点で静岡、山梨同友会代表幹事等による座談会の TV 番組化なども計画したが、横断道開通が当初の予定より早まったことで準備不足のため実現できなかった。

今年度は、以上のようにコロナ感染や諸事情で上記の計画は未達となってしまったが、来期のコロナワクチン接種による感染収束に期待をしつつ、部会の来期の活動計画に今年の計画を引き継いでいきたいと考える。

以上